

ユーモアスピーチ船橋

2020 (R2) 年 3 月 12 日発行

ジョークは暮らしの調味料・ユーモアは人生のかくし味

167 回船橋ユーモアスピーチ

2020 年 3 月 12 日 (木)

3 分間スピーチ

スピーチテーマ 「キャッシュレス」、「迷惑」

ロングスピーチ

原田 益次さん 「笑い与健康、トレーニング」

長嶋 秀治さん 「シニアライフを豊かに」

主催：NPOシニア大楽

ユーモアスピーチ共和国・船橋支部

支部長：長嶋秀治 043-261-5832

発行者：長嶋秀治

編集&事務局：町田雅和

267-0066 千葉市緑区あすみが丘

5-26-7 T/F 043-294-2911

mac555new@ybb.ne.jp

参加費 500 円 (入会金 1000 円)

見学科 500 円

開催日と場所

毎月第②木曜日 14:00~16:30

会場「ニッセイ・ライフプラザ船橋」

船橋市湊町 2-1-1 日生船橋ビル 1F

2 月 13 日の参加者：入江、川田、山田、飯野、中島、はらだま、佐藤 (眞)、中久木、松永、常廣、辻内、大塚、佐々木、石渡、町田 15 名

ロングスピーチ

「地球 46 億年の出来事」

中島 孝之さま

地球は恵まれた星である。

- 1、太陽からの距離と大きさ
- 2、水が、固体、液体、水蒸気の状態が存在できる
- 3、地中でマグマが対流していて磁気がある。紫外線をバリアする

- ・ 40 億年前に細菌が誕生した
- ・ 6 億前に地球全体が凍結した。凍結が終わったのは噴火による二酸化炭素の増加による温室効果と考えられる
- ・ 5 億 3 千万年前のカンブリア紀に形ある生物が出現した
- ・ 4 億 5 千万年前に三つに分かれていた大陸が一つに纏まる移動が起きた。
- ・ 3 億 5 千万年前に陸上で生活する生物が出現した。
- ・ 2 億 5 千万年前に直径 1 千キロの大噴火が有って生物の 95% が絶滅した。西シベリアに日本の国土の 5 倍の広さの溶岩の塊が有る。
- ・ 2 億 2 千万年前のジュラ紀に恐竜が出現し、1 億 5500 万年栄えた。
- ・ 6500 万年前に恐竜が絶滅した。原因は巨大な隕石の衝突によって地球環境が変わったからという説が有力で、南アメリカのユカタン半島に痕跡が有る。
- ・ 恐竜が絶滅して約 6 千万年で鼠くらいの哺乳類から、人間に成るまでの進化の早さが驚異的である。700 万年前に猿から人間に分かれたと考えられている。

46 億年はイメージが出来ないので 1 年の時間軸で考えてみました。

1 ヶ月は 3 億 8300 万年、1 日は 1270 万年、1 時間は 532 千年、1 分は 8870 年、1 秒は 148 年に成ります。生物として目に見える生物に成ったのが、11 月の下旬、地上に上がったのが 12 月 2 日、恐竜が 12 月 15 日に出現して、26 日に絶滅、人類が誕生したのが 12 月 31 日午後 11 時 52 分で、12 時 59 分 59 秒に成っても電灯も電話も車も飛行機も、現代の文明の何一つ持っていないのです。我々人類は 1 年掛けて築いた地球環境を 0.3 秒の間に壊そうとしているのです。



3 分間スピーチダイジェスト テーマ「準備」、「不満」

中久木 一乗：「準備」

人生を決めるといわれる「準備」ということに関して、感心した 2 例を報告した。

1. 熊本地震が起きた夜 9 時、学会で札幌にいた熊本市民病院長は、直ちに空路で福岡（熊本空港は閉鎖）、そしてタクシーで翌朝には病院に帰り、市民救護体制に間に合った。常に現金 20 万円をポケットに準備していたから出来たと聞いた。非常金の準備は偉大だ。

2. ネパール西部をツアーした帰りのフライトが突然欠航になり、飛行 20 分の山道をジープで 9 時間かけて下山、翌日からの東部ツアーの予定がすべて狂うところだったが、83 歳になる我がリーダーは、ことを予測して一日予備日にしてあった。経験が生んだ準備は偉大だ。

・私も準備を重要と思いスピーチ原稿等を用意するが、原稿を座席に忘れることが多い。

歳と共に考えておくだけでなく、準備したものを忘れない「準備」が重要になった。

山田 正國：「準備」

何も準備をしてきたわけでは無い。2～3 月まえの例会で話した続き、何時も駅に歩いて行くとき人様に抜かれる。たまには抜いてみたい。丁度前によぼよぼの爺さんが歩いている。これなら抜けるぞ、3～4 分追いかけたが、間が詰まらない。とうとう先方さん先に最寄り駅に到着、追い抜き失敗。（ここまで前回の話）

二三日最寄り駅から自宅に帰るとき後ろから足音が近づいてきた、特徴のある足音だ、みるみる私を追い抜いていった。よく顔を見ると先日私が追い抜けなかったよぼよぼ爺さんだった。

町田雅和：「準備」

社会人落語家として、いろいろな仮説会場でやらせて頂きましたが、備品の準備で困るのが座布団。日本人の生活様式が洋風になったお蔭で、借用できる座布団が一枚も無い会場がありました。また事前打ち合わせで、落語をやる適当な高さの台がないため、レストランのテーブルを高座代わりにしようとしたら、「安全面で許可できない」と言われ落語会がお流れになった事があります。事前準備と現地での臨機応変が大切だと身に染みしました。

入江 清之：「準備」

私の相続と云っても預貯金、不動産、株式、信託などは雀の涙しかなく、愛人、隠し子、借財もなく、ただ妻、息子、孫娘が一人ずつと云うシンプルな構成ですので、私の相続では揉めようもないが、私が早く準備しなければならぬのは私の持つ親の墓の使用権の相続人を決めることです。一番良いのは息子がそれを相続することですが、息子の子供は娘一人なので、名門入江家も息子の代でお家断絶することが分かっているだけに、息子にその任を負わせるのも酷かと決め兼ねていなく。そこで、この際私が思い切って親の墓終をすませ、親は永代供養の合同墓地に入ってもらおうと考えています。さて、それを決めるのはいつか、それはボチボチではなく、今でしょう。

松永成三郎：「新型コロナウイルスの流行について」

昨年9月中国河北省で始まった感染症はその後パンデミックに発展し、今や世界30か国に広がっています。中国では本日現在で42,000人以上が罹患し、死者1,350人に達しています（これを書いている時点ではすでに6万人が罹患）。

わが国でもクルーズ船の発生を加えると250人に迫っています。アメリカでは我が国の対応が不手際と非難していますが、実は米国は同じ時期からインフルエンザが大流行し、すでに220万人がかかって、死者が1万数千、予想では2万人を超すと言われています。COVID-19と名付けられたこの疫病はしかし初めてではなく、18年前、同じく中国広東省に始まったSARSが記憶に新しいです。この時は8千余がかかり、774人が主として肺炎で死亡しています。数は少ないですが、死亡率では9%超している、COVID-19より多いです。さらに歴史を遡って1918年のスペイン風邪（実は米国が主体）と称するインフルエンザは、地球上全人類の約30%がかかったと言われています。現在の流行がまさかそこまでいくとは到底信じられませんが、早く終息してもらいたいです。

飯野 望：「準備」

何事も準備が大切です。

幸せな人生を送るには、縁起の悪いことを言っではいけない！と閻魔様が言います。遺言書➡エンディングノート。葬式➡サプライズフェアウェルパーティー。葬式委員長➡メインMC。坊主のお経➡ご住職のバラード。戒名➡天国へのログインID。これで皆さん幸せになれます。



予告：4月 「船橋ユーモアスピーチの会」

4月9日（木）14時 ニッセイプラザ1階 会議室

ロングスピーチ

田谷 正明さん

「ほんの少しゾクッとするハナシ。「七人の侍」を語る」

早瀬 君子さん

「時代と共に変遷する言葉」

スピーチテーマ 「免許証」、「ランキング」